



自治医科大学卒業生故の論文作成の勧め

☆推薦文☆

森下(高野)杏早先生、論文Acceptおめでとうございます。Endocrinology, Diabetes and Metabolism Case ReportsはPubMedにも掲載されており、最近問題になっているいわゆるハゲタカJournalとは一線を画すものです。

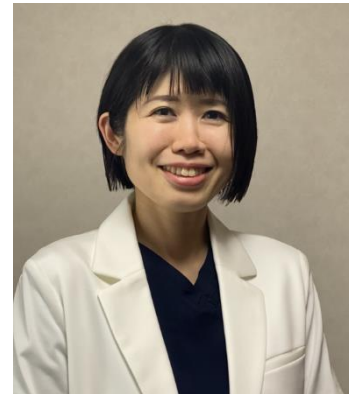
CRSTからの依頼開始からメールのやりとりは1年半で50回を超えました。Reviewersや私の様々な要求に対しても迅速かつ適切に対応した森下先生の頑張りには頭が下がります。私事ですが、大学人としてのキャリア最後の年に若い先生の論文作成に関われたことは嬉しく思います。

長い医師人生でこれからも興味深い症例に出会うこととでしょう。その時、今回の経験を生かし、形のあるものにしていくことをぜひ心がけてほしいと思います。森下先生、これからも頑張ってください。

茨城県立中央病院・茨城県地域ガンセンター 乳腺外科 穂積 康夫(自治医科大学・福島県5期卒業)

焼津市立総合病院 腎臓内科 森下 杏早 (静岡県 36期卒業)

自治医科大学36期卒の森下(高野)杏早と申します。今回、義務年限8年目に経験した副甲状腺癌の症例報告“Effect of early dose increase of evocalcet for intractable hypercalcemia of parathyroid carcinoma”がEndocrinology, Diabetes and Metabolism Case Reportsにacceptされました。今回、論文作成においてご教授頂きました茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 乳腺外科 穂積康夫先生を始め、CRSTの先生方に感謝申し上げますとともに、今回の経験をご報告させていただきます。



私は、5年間内科医として僻地勤務に従事したのち、現在務めている市中病院で腎臓内科医として勤務しています。今まで症例発表や、臨床研究を学会で発表するも、論文作成までには至りませんでした。書いてみたいと思い、‘論文作成のいろは’がかかれた本を買って読むものの、そもそも論文作成に値するものなのか、何から手を出せばいいのか、誰に相談すればいいのかわからず、堂々巡りの悩みに一歩が出ず、結局パソコンにデータだけが残っていただけでした。

そのような中出会ったのが、副甲状腺癌の症例です。副甲状腺癌による原発性副甲状腺機能亢進症により高カルシウム血症をきたし、腎機能が増悪したことで受診されました。詳細は省きますが、経過から癌を想定し、耳鼻咽喉科の先生と相談し、拡大手術となりましたが、当初の病理結果は副甲状腺腫でした。副甲状腺癌は病理診断が難しい疾患であるため、病理の先生にお願いし、再度切片を作成して頂いたところ、副甲状腺癌の所見を見いだすことができたという、努力が実った症例です。副甲状腺癌は約半数が再発するため、今後もフォローが必要であり、診断できたことで患者さんの役に立てたのではないかと思います。

副甲状腺癌自体が非常に稀な疾患であるため、これであれば症例報告できると当初は安易に考えていましたが、調べるほど、疾患のみでは症例報告にならないことを痛感しました。それならば、工夫した点で報告しようと考え、病院内で相談しましたが、どの雑誌に投稿すればいいのかわからず途方に暮れていたところ、ちょうど大学から送られてきた資料でCRSTの存在を知り、この素晴らしいシステムに感激しましたものの、本当に相談していいのか数か月悩んでメールをしたことを覚えています。データの不足や診療の計画性のなさもあり、当初症例報告できるか心配でしたが、穂積先生にはご多忙にも関わらず、何度もメールを頂き、軌道修正して下さいました。初めて論文という形になったときは非常にうれしかったです。1度はrejectされましたが、他の雑誌を紹介して頂き、無事にacceptにたどり着きました。

今回、論文作成するに当たり、疾患をさらに深く学習できたことはもちろん、穂積先生やreviewerの先生から様々なご指摘を頂き、疾患の多様な見方・診療の仕方を学ぶことができ、診療するうえで大変刺激になりました。また、今まで論文作成をするに当たり、知りたかった英語論文の書き方から英語校正、reviewerとのやり取り、rejectされた後の再投稿からacceptまで一連の流れを体験できたことは、非常に大きな一歩となりました。

皆さんの中にも、論文作成をしようか悩んでいる方もいるかと思います。僻地や地方で診療していると、論文作成のようなアカデミックな指導を受けにくいのが現状です。しかし自治医科大学には、CRSTという力強いサポート体制があります。様々な分野の先生方がいらっしゃるため、ある意味、他大学卒の先生方よりも恵まれているのかもしれませんが。私も当初、連絡に躊躇しましたが、とても親身にかつ建設的にサポート頂けるので、是非その重い腰を上げて下さい。想像以上の成果が得られるかと思います。

最後に、約1年半と長期に渡り、丁寧にご指導下さり、このような機会を頂きました穂積先生には大変感謝申し上げます。

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープンラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7476/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp

<https://grad.jichi.ac.jp/>